

令和4年度 5月号

令和4年 4月28日発行
横浜市立東汲沢小学校

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

今の自分で大丈夫

副校長 田邊訓志

4月に副校長として着任いたしました、田邊 訓志(たなべ さとし)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
4月7日の木曜日には、着任式・始業式がありました。この日は、子どもたちにとって、(そしてお家の方もきっと)「どんなお友達と一緒にのクラスになるのかな」「担任の先生はどの先生かな」「新しく来た先生や職員の方はどんな人かな」と、わくわく、どきどきが詰まった1日です。そして、われわれ教職員にとっても、「子どもたちはどんな表情で登校してくるのかな」「校長先生に自分が紹介されたとき、子どもたちはどんな反応をするのだろう」と、やはり何年たっても胸が高鳴る日です。

さあ、前年度の担任の先生から名簿をもらい、新しいクラスでひぐみっ子が並びました。校庭に並ぶのも、2年ぶりとのこと。子どもたちを、ひぐみ自慢の桜と、青空が包んでいました。子どもたちの目は前に並ぶ教職員に向けられています。教職員の間も、ひぐみっ子に向けられています。

子どもたちの「どきどき」を察してか、校長先生が「う～ん、どの学年から発表しようかな～」と、盛り上げます。「早く、早く！」ひぐみっ子の緊張が高まります。

「3年生にしよう。3年1組の担任の先生は、福壽先生です。」「わー！」3年生のあたりから歓声が上がりました。それだけではありません。さらにほかの学年の子どもたちが拍手をし始めたのです。それを見た校長先生が「一人目の先生に拍手をしたら、これから発表するほかの先生にも全員拍手をしてあげてね。」と言いました。何人かの子は「はい！」と元気よく声を上げました。そうして、子どもたちの歓声と拍手が最後まで続く、温かい時間が続きました。このことから、「ひぐみっ子と教職員は、これまでもとてもよい時間を過ごしてきたのだな。」と感じると同時に、保護者の方、外部スタッフの方、地域の方等々につつまれ、ひぐみっ子の自己肯定感が育まれているように思いました。

そのあとの始業式では、6年生の代表児童の素晴らしい発表がありました。また、校長先生の話の中で自分たちが褒められると、2年生でしょうか、「ありがとうございます！」という声が上がりました。褒めてもらったときに「ありがとうございます」と声に出せる、こんな姿もうれしく思いました。ひぐみっ子の歌う校歌もたいへんすてきでした。ひぐみが、ひぐみっ子のよさであふれた1日でした。

副校長は、式の開式、閉式を宣言することが務めですが、私はこの始業式の閉式の時に、ひぐみっ子が、先生や職員を歓声や拍手で温かく迎えたことや、褒められたときに「ありがとう」と言えたこと、校歌を歌ってくれたことなどについての感動を伝えました。

大人の立場から言えば「高学年の歌声がもっと大きいとよかったな、挨拶の声など、反応がもっと大きいと嬉しいな。」と欲が出てしまいます。でも、高学年は自立の時期です。大人よりも身近な友達との関係性が大切になりますし、人の言うとおりでなく自分の頭で考え行動したくなる時期です。だから、自分の心のまま素直に言葉を発したり、まっすぐに行動したりしたい気持ちはあっても、つい「様子を見てしまう」ジレンマが出る時期だと思います。自分の過去を振り返ってもそうですし、またこのことは、国語の教科書に出てくる物語(5年生「カレーライス」、6年生「帰り道」)にも表現されています。

ですから、こう付け加えて話しました。「欲を言えば高学年の歌声がもっと聞きたいという思いがありました。でも、高学年の皆さんは自立の時期です。どんな自分がいいか探す時期です。だから、今すぐに大きな声で歌えなくても大丈夫です。皆さんのまっすぐにこちらを見る目を見れば、頑張りたいという気持ちが伝わってきます。ですから、今の自分で大丈夫です。みなさんの自分づくりを、大人は応援していますよ。」

自立が見られるようになってからは、「今の自分」「今できている頑張り」を他者が認めることで、「まだまだこんなもんじゃないぞ」「次はこれも頑張るよ」と、自分で次の目標に進めるのだと思います。

これからも子どもを信じ、小さな成長も認め、励ます声掛けのできる職員集団でありたいと思います。そしてこのことをお家の方や地域の方と共有し、一緒に続けていきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。